

## ちょっと変わった クッキーの話

じっきょう理科資料編修部

一見なんの変哲もないクッキーに見える。およそ5cmという大きさは、特別に大きいわけではないけれど、ひと口サイズというには少し大きいかもしれない。アーモンドが乗っているわけでもなければ、チョコレートでコーティングされているということもない。色もいたって普通。もっと変わった色のクッキーは探せばいくらでもあるだろう。ためしにひと口かじってみても、これまたなんの変哲もないバタークッキーの味がする。

「何か変わった味がしない？」

事前にそう言われて味ってみれば、確かになにか普通のクッキーにはない味がしなくもない…かもしれない。とはいえ、もっと独特のクセのある味をしたクッキーも、やはり探せばいくらでもあるだろう。

「このクッキー、1枚90円もするんだ」

何も知らずにこのクッキーを口にした人にこう言えば、多少は驚くかも知れない。5枚入りで450円というこのクッキーの値段は、何も知らずに味わった後では、多少高く感じるかも知れない。とはいえ、もっと高価なクッキーも、やはり探せばいくらでもあるだろう。

では、そこでこう言ってみるとしよう。

**「このクッキー、実は1枚あたり“ミドリムシ”  
が2億匹含まれているんだ」**

このミドリムシとは、理科の授業でもおなじみ、ゾウリムシやミジンコなどと一緒に教わるあのミドリムシである。そう言われてもうひと口かじると、なんだか少し青臭いような味がしてくるかもしれない。いや、その前に、人によってはミドリムシという名前を聞いただけでもう、ひと口もか

じれない場合もあるだろう。ちなみに、1枚に2億匹含まれているということは、ひと口でもぎっと数千万匹のミドリムシを摂取したことになる。

大きさ約0.1mmほどのこの小さな小さな生き物だが、(財)日本食品分析センター等の分析によると、ビタミン、ミネラル、アミノ酸、不飽和脂肪酸といった栄養素を合計59項目含んでいるというのである。

カロリー以外の点で人間に必要な栄養素のほぼ全てを、水と栄養塩類、太陽の光と二酸化炭素があればミドリムシはバランスよく作り出すことができるのである。

実はこのクッキー、日本科学未来館と株式会社ユーグレナ(ユーグレナとはミドリムシの別称)が共同開発し、現在同館で開催されている企画展「「おいしく、食べる」の科学展」の関連グッズとして販売されているものである。また、館内のカフェでは、ミドリムシのベーグルも販売されている。こちらのベーグルひとつには、およそ15億匹のミドリムシが含まれているとのことなので、ひと口でも1億匹前後の……。

さて、この企画展では、味わいのメカニズム、食品の大量生産、保存技術、未来の食、食品廃棄の問題、健康・安全・食料危機という6つのメニューで“食”を先端科学技術の視点から捉えている。“食”という身近な領域を扱っているせいも、科学技術を駆使した分析ながら、展示はどれも非常にわかりやすく、親しみやすい。その中に「未来の食材!ミドリムシが世界を救う!?!」と題したコーナーがあり、実際に小さな未来の食材たちが泳ぐ水槽も展示されている。

そんな彼らの勇姿?を見た後で、もうひと口、このクッキーをかじりながら、未来の食生活に思いを馳せてみてはどうだろうか?

“おいしく、食べる”の科学展

開催時期:2010年3月22日(月・祝)まで  
日本科学未来館にて開催中

株式会社ユーグレナ

<http://www.euglena.jp/>